

志津と臼井の歴史物語

The Historical Tale of Usui and Shizu

志津次郎

Shizu Jiro and the Mononoke

もののけ

絵本の舞台地をめぐる

時は鎌倉・南北朝・室町時代・・・志津城は臼井城の支城のひとつで千葉氏一族志津次郎胤氏の居城でした。
ある日、森で助けた「もののけ」との出会いから物語は始まります。
幼くして臼井城主となった兄の子「竹若丸」を亡き者にと、もののけの力を過信した志津次郎は野心を抱き、一度は臼井城主となりましたが、竹若丸は乳母「阿辰（おたつ）」と岩戸五郎に助けられ難を逃れます。これに怒ったもののけと志津次郎は岩戸城を攻め阿辰は殺されてしまいます。やがて成人した竹若丸は、名を「興胤（おきたね）」と改め本領を回復し臼井城へ戻ります。志津城に退去せられた志津次郎は主従の礼を怠りやがて兵を向けられ滅亡。落城時、胤氏のかわりに難刀（なぎなた）をふるった妻君の武勇伝が語り継がれています。近年、この地から室町時代の骨つば（かめつば）が発見され城主志津次郎胤氏のものでは？と、関係者の間で話題になりました。
また竹若丸を助けた阿辰は今も臼井の人たちに敬われ祠には供えものが絶えることがありません。

上巻・下巻
物語巡礼ガイド

絵本「志津次郎もののけ」は佐倉市街づくり文化振興臼井基金の助成を受け作成され、佐倉市内の教育機関（一部を除く）と図書館に收藏されています。

非売品

デジタル版
志津次郎
もののけ
Free!

無料
配信中



シヅミナ

志津駅南口商店会

SINCE 1976 & 2020

地方創生
わたしたちのまちをもっと元気に

臼井と志津地域の歴史物語から

キャラクターが

絵本の主人公「志津次郎」と「もののけ」

誕生しました。



shizu-map.jp



絵本：志津次郎ともののけ



志津城物語



詳しくはこちら
For more details, click here



出典 大空社出版
「歩いてみよう志津」
宮武孝吉 著

千葉氏と共に栄え
最期まで支えた臼井氏。

その臼井氏中興の祖と謳われた

臼井興胤は幼少時代、叔父志津次郎の起こした騒動に巻き込まれ波瀾の人生を歩みます。

絵本「志津次郎ともののけ」は

臼井城の支城とされる志津城城主志津次郎胤氏がもののけを助けたことから始まる不思議な

かわりを綴った歴史物語。

優しさと勇氣、過ちと反省の大切さを伝えるため

志津駅南口商店会「シヅミナ」が創作しました。

楽しく撮影して
「#」をつけて投稿しよう！
(※臼井城、志津城、や、志津次郎ともののけの
地名の名前をプレゼントする
フォトコンテストも計画中！)

誕生を記念して

デジタル フォトを配信

志津城物語のキャラクター「志津次郎」「もののけ」と一緒に写真を撮ろう！

只今出現中!!

「志津次郎」と「もののけ」に
絵本の舞台地で会える！

とっても楽しい! AR フォトスポット
無料のARフォトアプリがダウンロードできキャラクターがスマホ画面に登場するデジタルフォトスポットは、パンフレット内「志津次郎ともののけ」の、「登場人物とゆかりの地」マップ内のARマークで記載しています。さあ、皆さんも歴史文化にタイムトリップ！

会いにいこう! ARフォトスポット



実施期間 2027年
2月末日まで

フォトスポットにて、無料のアプリ(WARPワープ)で、QRコードを読み込むと志津城物語「志津次郎」・「もののけ」の3Dキャラクターがその場に出現します。



シヅミナ

志津駅南口商店会
SINCE 1976 & 2020

臼井氏のご子孫と志津氏のご子孫を繋げた
シーンにAR志津次郎が登場!
天御中主神社境内(志津城跡)において。

令和七年度に佐倉街づくり文化振興臼井基金の
助成を受けシヅミナが作成しました

※QRコードはデンソーウェーブの登録商標です。

しづ じろう 志津次郎ともののけ

登場人物と
ゆかりの地

Introduction to the Characters and Related Locations

しづじろうたねうじ

志津次郎胤氏 Shizu Jiro Taneuji

胤氏は鎌倉時代の武将でこの時代に地域を治めた白井氏当主、白井太郎祐胤の弟にあたります。祐胤が25歳という若さで没すると、遺児である竹若丸を胤氏が後見し、支えることになりましたが、胤氏は竹若丸の暗殺を画策。この企てに気づいた竹若丸の乳母であった阿辰と白井一族の岩戸五郎胤安は竹若丸を連れて白井城を脱出し、鎌倉建長寺の仏国師（高峰顕日）にその身柄を預けたと伝わります。竹若丸が鎌倉へ脱出したことにより、胤氏が白井一族の実権を握りました。



もののけ ニコ Mononoke Niko

もののけニコは、志津地域に古くから暮らすニホンリスが変化した妖怪です。人を笑わせることが大好きで自分の喜びの感情を妖力に変えてあらゆる対象に使うことができます。その行為は対象を笑わせるためにはあらゆる犠牲もいとわないことから笑わせようとするがあまり、逆に悲しませてしまうことも。普段は大きな耳を頭巾でかくし、手に持った桜の木の枝の先にニコニコ玉をつくって妖力を蓄えているかわいらしいもののけです。



うすいたろうすけたね

白井太郎祐胤 Usui Taro Suketane

白井家は、千葉介常兼の三男常康を祖とし、2代常忠とその子康胤が千葉一統と共に頼朝公の旗揚げに加わり、白井の豪族としての地位を固めます。父は白井六郎昌胤。通称は太郎。白井家惣領となり、弟の次郎胤氏を志津郷に派遣して守らせたといえます。また、一族の岩戸五郎胤安（岩戸城主）、師戸四郎（師戸城主）、用草三郎（用草城主）にはそれぞれ白井庄内の要害を固めさせたと伝わります。正和3（1314）年、病のために弟の志津胤氏に嫡男・竹若丸の後見を命じ、二十五歳の若さで没した伝わっています。



うすいおきたね

白井興胤 Usui Okitane

白井興胤は白井城主、南北朝時代の武将です。下総白井城主白井祐胤の子。父の死後、叔父の志津次郎胤氏の策略により命を狙われますが、乳母の阿辰と岩戸五郎の助けにより鎌倉建長寺で成長しました。成人して足利尊氏にしたがうと戦功をあげ暦応元年（1338）白井城を本領と認められたと伝わっています。その後、志津次郎胤氏をほろぼし、白井家の中興を担いました。幼名は竹若丸。初名は行胤と伝わっています。



おたつ

阿辰（お多津） Otatsu

阿辰は、白井祐胤の子・竹若丸の乳母と伝わります。鎌倉時代の末期、白井城の主だった白井祐胤（白井太郎祐胤）は、25歳の若さで死去しますが、遺児・竹若丸（3歳）の後見を、弟で志津城主の志津次郎胤氏に依頼しました。しかし、胤氏は下総・白井城を我がものにするため竹若丸を殺害する策略を準備します。これに気づいた阿辰（お多津）は、岩戸城の岩戸五郎胤安の助けを受け、竹若丸を鎌倉・建長寺へ逃しました。やがて関与を知った志津次郎に追われ印旛沼の芦原に潜んでいた阿辰は、不意に咳が出てしまい、発見されて殺されたと伝わります。

いわとごろうたねやす

岩戸五郎胤安 Iwato Goro Taneyasu

岩戸五郎胤安は鎌倉時代の武将で千葉氏の一族であり白井氏の重臣です。下総印旛郡の岩戸城主を務め、主君の白井城主白井祐胤が死去の後、跡継ぎの竹若丸（のちの興胤）が祐胤の弟、志津次郎胤氏によって殺されそうになったのを助け、鎌倉の建長寺に託しました。その後、胤氏は志津次郎胤氏に攻められ戦死したと伝わります。岩戸城跡とされる西福寺には岩戸五郎胤安の碑があり、白井家を救った立役者として地域に讃えられています。



AR フォトスポットに設置の2次元コードにスマホをかざすとARによる、志津次郎やもののけが現れ、いっしょに写真がとれます。

志津駅南口商店会「シヅミナ」
Shizu Station South Exit
Shopping District
[SHIZUMINA]

Shizu Castle Ruins, Amenomi Nakanushi Shrine

志津城物語

しづ 志津次郎 じろう ものけ

史跡案内 Historical Site Guide



■ 志津城跡 天御中主神社

Shizu Castle Ruins, Amenomi Nakanushi Shrine

志津駅南ロータリーから続く商店会の奥、閑静な住宅地の中に広がる竹林、巨木に囲まれた場所に社殿があります。雷か戦火が原因なのかわからない大きく口を開けた洞を持つ大木や社殿の彫刻、石碑等に歴史を感じさせる志津城物語の舞台地。



千葉氏の氏神である妙見神社が神仏分離令で天御中主神社と改名されました。志津城の跡地に建てられたと伝わります。志津城は臼井城の支城の一つで、千葉一族である志津次郎胤氏の居城とされこの神社の境域とその周辺が鎌倉・室町期の志津城跡と言われています。



■ 上峠城跡

Kamitoge Castle Ruins

上峠城は、臼井氏(千葉氏一族)の防衛網の一角を担ったとされる支城・出城。印旛郡誌(大正2年)には「上峠ノ地ハ古、臼井氏ノ出城アリシ所ニシテ、志津城ト連絡スル要地ナリト云フ」とあり、上峠城は志津城を補完する、防衛・通信拠点と考えられています。

■ 大口館跡 報恩寺周辺

Ouguchi Yakata Ruins

千葉県佐倉市下志津の報恩寺周辺に伝わる中世の城館跡(館跡)で、志津城や志津次郎館と同一視されることが多い史跡です。報恩寺境内には、古い供養塔があり、その時代に想いを馳せるのも感慨深いものです。

■ 志津駅南口商店会「シヅミナ」

Shizu Station South Exit Shopping District [SHIZUMINA]

京成志津駅南口にある商店会。もののけニコ同様、人をニコニコさせることが得意な商店街です。志津城下南参道と銘打ち、お店によってさまざまに人をニコニコさせる、まるで妖術のようなサービスをたくさん考えている、楽しく明るい言わば妖怪(もののけ)商店会です。



■ 臼井城跡

Usui Castle Ruins

臼井城(うすいじょう)は、現在の千葉県佐倉市臼井田地域にあった城郭で佐倉市指定史跡です。平常兼の子の常康が臼井に居を築き臼井六郎を称したこと、その居館がこの臼井城であったとされています。臼井氏の中興の祖といわれる臼井興胤(14世紀中頃)が本領である臼井に復帰し、臼井城に居城したと伝わっています。



原氏が城主となった室町時代以降の戦乱の時代において後期千葉氏の拠る本佐倉城と共に重要な役割を果たしました。天正18年(1590)、北条氏の滅亡とともに原氏は命運を共にし、新たに徳川家康の家臣である酒井家次が城主となりました。その後、慶長9年(1604)に酒井氏が転封になると臼井城は廃城となりました。



■ 円応寺(圓應寺)

Enno-ji Temple

瑞湖山圓應寺は、釈迦牟尼仏を本尊とする臨済宗妙心寺派の寺院です。圓應寺所蔵の「圓應寺草創記」によれば暦応元年(1338)に臼井氏中興の祖である臼井興胤(うすいおきたね)により創建されたといえます。開山は竹若丸(後の興胤)を養育した鎌倉建長寺の仏国師とならび、影で臼井氏の再興を支えた仏真禪師で、師の恩に報いたものです。以来、臼井氏の菩提寺として崇敬されてきました。

寺領は広く風光明媚で知られ、臼井城跡とともに「城嶺夕照」として臼井八景の一つに数えられました。

酒井氏が臼井に居城のとき城とともに焼失したものを後に再建したものです。



■ 阿辰の墓

Otatsu Grave

竹若丸(後の興胤)を逃した阿辰は志津次郎の怒りにふれ、城を出ます。その後、印旛沼の芦原で咳込み、追手に見つかり死に至った後、村人が阿辰を讃え石の祠を建てて、供養したのが、阿辰の墓です。

現代においても「おたつ(お多津)様」として地域に愛され、麦こがしとお茶を供えて、お願いすると咳(せき)が治まると伝わり「咳神」としても知られています。

近年志津次郎の襖(みそぎ)菓子としての麦こうせんが販売され志津の有志が墓参におとずれています。



■ 岩戸城跡

Iwato Castle Ruins

岩戸城は鎌倉時代末期に千葉一族の臼井氏に仕えた、岩戸五郎胤安の居城として知られています。志津城、師戸城と並ぶ臼井氏の三大支城のひとつでした。胤安は臼井氏の家督相続争いに巻き込まれ、竹若丸を救ったのち一族の志津次郎胤氏に攻められ討死しました。その後も臼井城の支城として利用されたと考えられていますが、西福寺がある場所が本丸跡と推測され、周辺に土塁や堀跡を確認することができます。



上志津 探訪マップ

志津城下町の姿を歴史から感じる

シェアサイクルステーションについては HELLO CYCLING の Web サイト (QR コード) よりご確認ください。



11 志津駅 & 志津駅南口商店会

志津は歴史と物語が魅力のまち。志津駅南口商店会のホームページではここがどんなところだったのか？山城ガールむつみさんによる解説映像を観ることができますよ！



ホームページ QR コード

各種 SNS で情報発信しています「志津駅南口商店会」で検索 ▶

1 はちまんじんじゃ 八幡神社

Hachimangu Shrine



創建は寛永3年(1626)と伝えられ、本殿の側面にほどこされた彫刻は、大きな見どころのひとつ。きれいにき詰められた境内は、常緑広葉樹林の閑静な佇みを残し、「上志津の杜」として地域の憩いの場として愛されています。

2 みなみしづこうえん 南志津公園

Minami Shizu Park



上志津の杜のとなりにある多目的な芝生公園。緑豊かで 80 種類もの植物をみることができます。周囲を遊歩道により散歩ができますが、調整池としての役割を持ち、大雨のときなどは利用できません。ここには上志津川の水源があるとされています。

3 わしのみやじんじゃ 鷺宮神社

Washinomiya Shrine



八幡神社表参道の登口にある小さな社で、天日鷺神(あめのひわしのかみ)を祭神としています。創建は不明ですが、地域の方がよくお参りする姿を目にします。

4 さいふくじ せきぶつくん 西福寺と石仏群

Saifukuji Temple



阿弥陀如来を本尊とし、三百年前、井野の千手院の隠居寺として建てられました。境内左手の塚には出羽三山参拝記念供養塔がたくさん建てられていて、出羽三山信仰が盛んな土地柄だったことがわかります。上志津からの参拝者が泊まった宿坊の記録には元禄の時代から 187 名のお名前が記されています。

5 おざわけ 小沢家のケヤキ

Ozawa Family's Zelkova Tree



西福寺の隣の小沢家にある大きなケヤキです。樹齢約 300 年、志津で最も大きい木といわれています。幹周りは約 5.65 メートル。小沢家と地域のみなさんに大切にされ今もこの地域を見守るかのよう

6 いやし 里山・清水台

Shimizudai



標高が沼に注ぐ水源のひとつで湧き出る水が私用地裾から、見えます。あるこの里山には印旛く水源のひとつで湧き出る水が私用地裾から、見えます。

7 いなりじんじゃ 稲荷神社

Inari Shrine



ここは、私有地に建てられた神社です。石造りの神使である狐が迎えられている。巻物をくわえた像もあり話題に！その意味は、知恵の象徴といわれています。

10 上志津新田の石仏群

Stone Buddha Statues of Kamishizu Shinden



石仏を祀るために一画が確保されています。庚申塔、二十三夜塔や馬頭観音などが祀られています。刻まれた文字を読んでもの歴史散策の楽しみのひとつです。

9 なかむらけ なかやもん 中村家長屋門

Nagaya Gate of the Nakamura Family



江戸時代長屋門は身分によって厳しく制限され、武士、名家などに限り許されていました。中村家は佐倉藩堀田家の配下に属し、道場を開いていたといえます。保存状態もよく貴重な文化財のひとつです。

8 あめのみなかしんじんじゃ しづじょうあと 天御中主神社と志津城跡

Shizu Castle Ruins and Amenominakanushi Shrine



鳥居をくぐり、石段を登ると巨木に囲まれた社殿が姿をあらわします。地域の方々に「妙見さま」と呼ばれ親しまれており、この神社とその周辺が志津城跡といわれています。近年、この地から

大きな骨つぼ(かめづぼ)が遺物の入った状態で発見され、志津次郎胤氏のものでは？と話題になりました。佐倉市教育委員会で復元され保管されています。歴史浪漫をかきたてられますね。

●引用・資料：歩いてみよう 志津史跡・いまむかし 宮武孝吉氏著 (大空社出版)

発行所 志津駅南口商店会「シツミナ」